



「7年後」に向かって何を

9月8日未明、IOC総会にて56年ぶりとなる、2020年東京オリンピック開催が決定しました。おそらく眠い目をこすって“その瞬間”をご覧になった方も、沢山いらしたことでしょう。私もいったん朝5時頃起きて生中継でしっかりと確認し、ゆっくり二度寝しました(笑)。

私は1964年、つまり前回の東京オリンピックの年に生まれたのですが、同年は東京モノレールや東海道新幹線が開業するなど、五輪効果でインフラ関連の整備が急ピッチで進められており、まさに高度成長期まっただ中。その発展ぶりは、書物や特集番組などでもよく目にします。

一方、遊技業界では同年パチスロの原型である「オリンピアマシン」が誕生したとされています。オリンピア、というのはオリンピックを記念して名付けられたようで、85年に保通協検査が始まり「パチスロ」に統一されるまで、ずっとその呼称が使われていました。

そして、いよいよ次回の東京オリンピ

ック開催が決まったわけですが、その年私は新幹線やパチスロと同じ56歳。すぐに思ったのは「それまで、元気でいられるかな？」ということでした。私が参加しているフェイスブクな

どのSNSでも、何人かの同年代の友人が「7年後まで生きていたら…」とか「もし東京オリンピックまで生きてたら…」といった文言を書き込んでいて、みんな同じようなことを考えているのだな、と非常に面白く感じました。

また、決定後のTVニュース等でも「7年後の有望選手紹介」とか「7年後の日本は？」といった特集がよく組まれていて、こんなに日本中の人々が「7年後」という具体的な時期について真剣に考える機会など、もう滅多にないのだろうなと、変に感慨深くなってしまいました。

しかし同時に、大きな懸念事項もあります。IOC総会でも質問に挙がった放射性物質の漏洩問題をはじめ、被災地の復興にもまだまだ課題が山積みです。さらに以前から話題になっている「関東大震災(直下型地震)」や「南海トラフ地震」発生危険性も、忘れてはならないでしょう。正直、私自身前回の2016年五輪招致の時は「ぜひ東京に！」と思っていましたが、今回は原発問題や震災復興という大きな優先課題があるため、東京に決まらなくてもいいや…という気持ちもありました。

おそらく、国民の多くもそうした懸念を抱いているに違いありません。総会の席で首相が世界に約束した安全性も、本当に果たせるのか? 気になることは多いものの、ある意味「7年間」がリミットという考え方もできます。その間、やれるだけのことを頑張るしかないでしょう。

ともかくにも、7年後には確実に東京オリンピックがやって来ます。パチンコ風というと「ラッキー7」の気持ちで、2020年に向かって行けたらいいな、と思います。



オリンピアマシン(8月4日「パチスロの日」の展示から)